

# 第5期科学技術基本計画の 検討状況について

平成27年11月24日

内閣府

# 「第5期科学技術基本計画」素案のポイント

「新3本の矢」で掲げた**GDP600兆円目標**の実現のためには、**生産性向上が不可欠**

先の見えない大変革時代が到来する中、**各国のイノベーション創出をめぐる競争は激化**

(独「インダストリー4.0」、米国「先進製造パートナーシップ」等)



世界の潮流を先取りし、グローバル競争に勝ち抜く、更に人口減少・少子高齢化が進む中で1億総活躍社会により国民の生活の豊かさを実現するためには、**科学技術イノベーション政策への先行投資が必須**



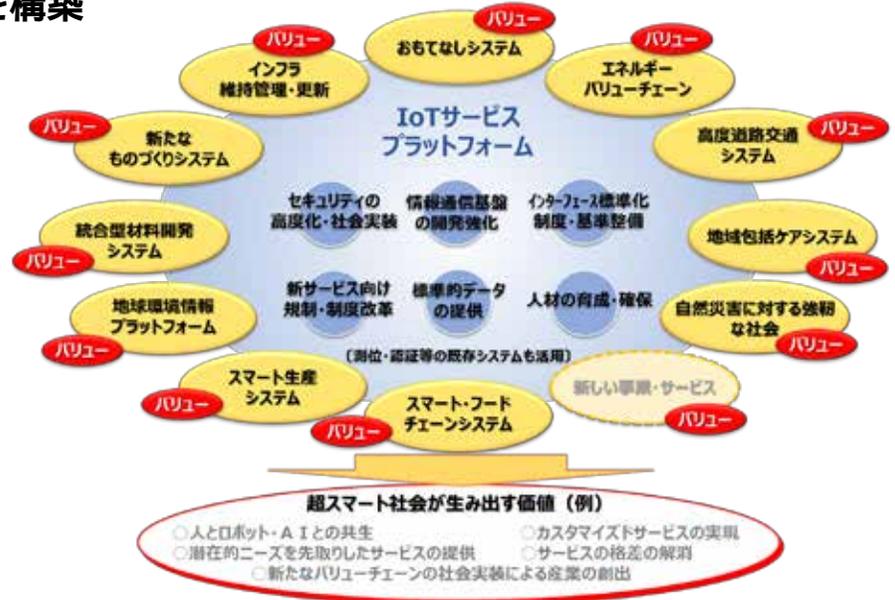
**先見性と戦略性を持った政策が必要**

(未来に果敢に挑戦する研究開発、IoTなどを活用した「超スマート社会」の実現など)

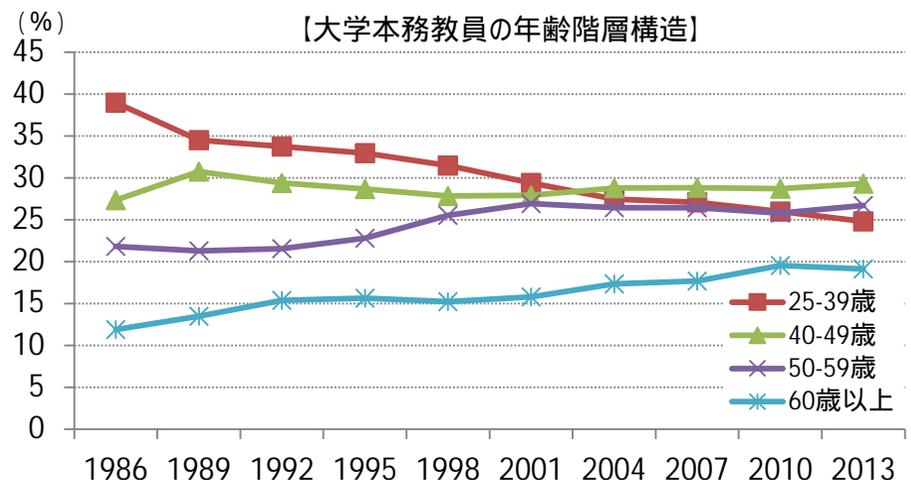
大変革時代のいかなる変化にも対応できるよう、**基礎研究を始めとする基盤的な力の強化が必要**

(若手研究者の育成・活躍促進、大学改革など)

「超スマート社会」の実現に向け、IoTサービスプラットフォームを構築



未来への投資として、若手研究者の育成・活躍促進が必要



(出典：文部科学省「学校教育統計調査」等をもとに文部科学省作成)

# 「第5期科学技術基本計画」素案のポイント

大学発ベンチャーの成長などの好機を活かし、イノベーション創出に向けた**人材、知、資金の好循環システムの構築**が必要

(オープンイノベーションの推進、ベンチャー企業と連携したイノベーションシステム構築など)

- ・ 今般の基本計画の策定及び推進には**産業界がイノベーションの主体としてコミット**
- ・ 進捗状況を**指標分析を基にフォローアップ**
- ・ 官民一体となって「**世界で最もイノベーションに適した国**」の実現を目指す

未来に向けた研究開発投資の確保 (検討中)

## 経済界の提言

- ・ **日本経済団体連合会** 「第5期科学技術基本計画の策定に向けた緊急提言」 (平成27年10月)  
第5期科学技術基本計画においては、最低限、従来の計画で掲げた「**政府研究開発投資の対GDP比1%**」という数値目標を明記し、着実な実現に努めることが不可欠。2016年度から毎年度GDP比1%の研究開発投資額を確保するとした場合、**第5期計画期間中の政府研究開発投資は、総額28兆円**  
産業界では、経団連ビジョンで掲げた、次の時代を担う「**新たな基幹産業の育成**」に向けた本格的なイノベーションを推進する。具体的には、非競争領域を中心に**複数の企業・大学・研究機関等とのパートナーシップを拡大し、将来の産業構造の変革を見越した革新的技術の創出**に取り組む。

そのほか、日本商工会議所、産業競争力懇談会 (COCN)、関西団体連合会から、政府研究開発投資の対GDP比1%、総額26兆円などの提言が出されている。

大学発ベンチャーの時価総額は1兆円を超えるまで成長

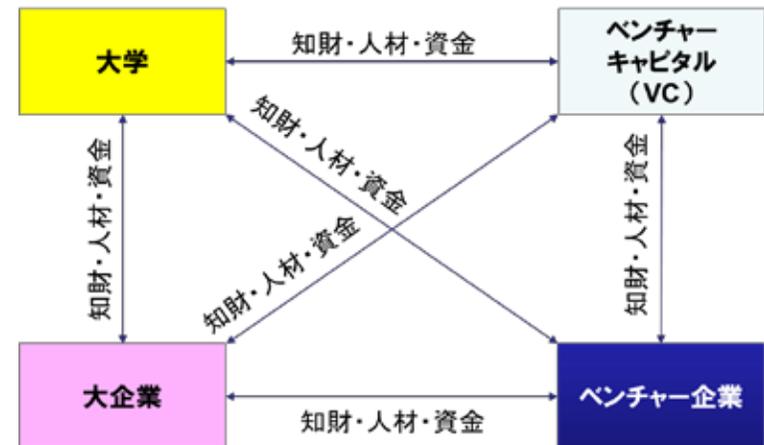
## 大学発ベンチャーの時価総額

上場市場計 1兆700億円  
(H27.4.1時点)

(例)

- ・ サイバーダイン (筑波大学) 介護ロボット
- ・ ユーグレナ (東京大学) ミドリムシの屋外大量培養技術

## ベンチャー企業と連携したイノベーションシステムを構築



(出典：日本経済団体連合会作成資料)

## パブリックコメント

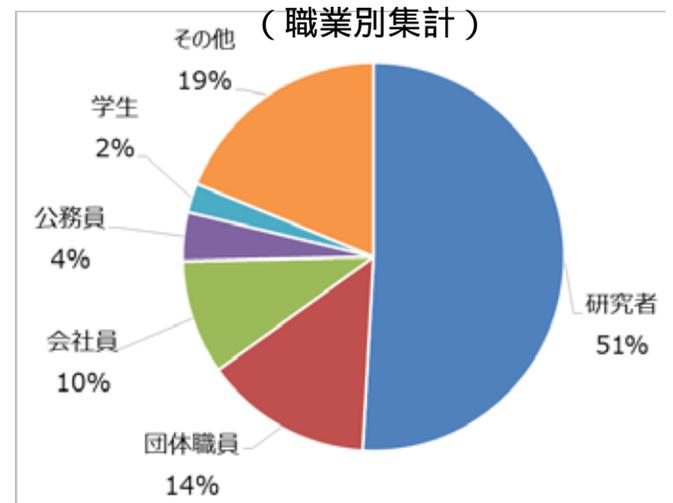
### (1) 実施期間

平成27年11月上～中旬

### (2) パブリックコメントの集計結果について

意見数 合計：493件

1人から複数の意見提出があった場合には、それぞれ別個にカウント。



### 意見例

- ・ 日本の研究環境が悲惨となり、海外の職の方が魅力的な状況。このため、優秀な人材が海外に引き抜かれ始めている。
- ・ 大学の基盤的経費を充実すべきである。
- ・ 若手研究者の任期なしポストを拡充してほしい。
- ・ 女性研究者の新規採用割合に対する数値目標を明記すべきである。
- ・ 競争的資金における使い勝手の改善など、研究者が利用しやすいよう、制度を見直してほしい。
- ・ 研究公募における事務手続きの簡略化・合理化を進めてほしい。

## 今後の予定

12月中 総合科学技術・イノベーション会議において答申（予定）

今年度中 閣議決定（予定）